



Japan Kenaf Association

ケナフ (Hybiscus cannabinus)

ケナフはアオイ科ハイビスカス属の一年草で、成長が速く地球温暖化の主要原因とされている二酸化炭素の吸着量が樹木の4~5倍にのぼると言われている。近年、麻袋やロープ等伝統的用途に加え、紙やボードの原料並びにプラスチック添加物としての新しい利用法が開発され、環境に優しい繊維植物として注目されている。

1. 栽培・収穫



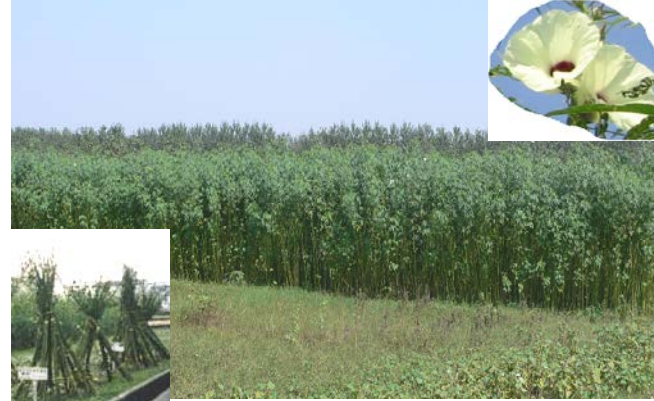
(1). 種まき (5月初旬~6月下旬)

- ① 地温が20℃前後になった5月初旬頃に畑を耕し畝を作る。
- ② 20cm程度の間隔に2~3cmの穴を掘り、2~3粒の種を蒔き土を被せる。



(2). 苗期の管理

- ① 発芽後3~4週間位したら、除草と共に間引きをする。
- ② 気象条件や生育状況に応じて灌水及び施肥を行う。



(3). 収穫

- ① 品種や種まきの時期等にもよるが、花が咲いて実り始めた時期に収穫すればよい。
- ② 鎌や鉞で刈り取り、持ち運びやすいように10cm程度の太さに束ねる。



(4). 乾燥・保存

- ① 全幹をそのまま原料として利用する場合、収穫した後天日で乾かす。
- ② 黴を防ぎ管理しやすくするために屋根型に積み上げて保管する。

2. レッティング・靱皮繊維の分離



(1). レッティング

- ① 靱皮繊維を利用する場合、刈り取ったケナフを水深50cm~1m程度の池または流れ緩やかな川に重ねて漬ける。
- ② 水に沈ませるために土で押さえる。



(2). 繊維分離

- ① 靱皮繊維が手で簡単に剥けるようになったら水中から取り出す。
- ② 靱皮繊維を剥ぎ取り不純物を水で洗い落とす。



(3). 乾燥

- ① 靱皮繊維を紐や竿で作った干し棚にかけて天日で乾かす。
- ② 木質部を束ねて乾燥させ、炭等の原料にする。



(4). 梱包・保存

- ① 乾いた靱皮繊維を持ちやすいように5~10cmの太さで根元の部分を括る。
- ② 梱包して湿気の少ない倉庫に保管する。